

















民協働 効果的な活用方法を検討する で地 域づくり

の取

備の事業化は、地域住民に 大変喜ばれていると思う。 湘南台駅地下広場整 |も考えていく必要がある。 じ、その点のルールづくり |るが、今後の活用状況に応 台市民センターが行ってい | どに課題があると捉えてい

ど、取組の予定を伺いたい。| るよう、様々な視点から手 くり、さらに広場条例の制 定やエリアマネジメントな マネジメントについては、 より効果的な活用が図られ

で活動する団体等の提案に 本事業は、当該広場|法の検討を行う。 湘南台のストリート

もので、市民協働による地 くり推進会議が地域の意見 基づき、湘南台地区郷土づ| 域づくりとして整備の具体| をまとめ本市に提言された 当該広場の活動申請受付 | 所で音楽に触れる機会の提 ピアノイベントには多くの 人が足を運んでいる。他の いて、市の見解を伺いたい。 公共施設などへの設置につ 答弁。ピアノを公共空間へ

化につながったものである。| 設置することで、身近な場 利便性を図るため湘南 境の確保やピアノの管理な 供ができる。一方、



広場の効果的な活用法を検討する = 湘南台駅地下広場

(日本共産党藤沢市議会議員団)

広場条例の制定やエリア う、努めていく。 |楽文化の振興につながるよ|には営業時間の短縮に協力 る。様々な機会を通じて音

要不急の外出自粛、飲食店

進させていく。

市 幅広い業種への支援 独自策を実 施 をいただいている。

(民主・無所属クラブ) 新型コロナウイルス

|よる厳しい経営環境が続い|も多いことから、 はじめとする業態は時短に 付されているが、飲食店を |感染症拡大防止協力金が交

たことにより、市民には不 急事態宣言が再び発出され **思うが、市の見解を聞きた** 題として、全庁を挙げて取 の声もあり、行動制限への が必要であると考えている。 講じてきたが、年明けに緊 市は事業者向けの支援策を 協力を求める以上は幅広い 事業者への支援が必要だと これまで国や県、 |応した働き方への移行も促

プロチーム化支援を 「観る」スポーツの推進

(市民クラブ藤沢)

る一時支援金の給付を決定 ついて、記念事業としては 上が半減した事業者に対す にあるスポーツ都市宣言に んでいることから、国は売

記

活性化などの視点からも効 が、プロ化支援は地域経済

る」スポーツの推進として、

|が厳しく、対象外の事業者

ている。協力金の対象外と|種やこれまで支援が行き届 |いていない事業者への支援

|もに、新しい生活様式に対 支援策を実施していくとと |事業者に対する本市独自の たな経済対策として、中小 |対策を最優先、最重要の課 り組んでいる。今後は、 現在、新型コロナ感染症

飲食店に限らず多業種に及 緊急事態宣言の影響は、

どのようなものを考えてい 質問 令和3年度施政方針 念セレモニーを行うととも つりふじさわにおいて、

しかしながら、支給要件 るか、市の見解を聞きたい。 | 考えている。 幅広い業 |を予定しているスポーツま | **を目指す取組が進んでいる | と考えるが、市の見解を伺** に基調講演を実施したいと | 果が大きいと考える。「観

|ともに、超高齢社会や脱炭

|素社会等の社会課題の解決

に先導的に取り組むことが

必須と考えている。

また、本地区周辺には、

神奈川フュ いたい。 や交流が生まれ、子どもた ることは、地元との一体感 ちに夢や希望を与えること ロスポーツチームを支援す 答式 本市を拠点とするプ 村岡地区まちづくり

地として活動しており、こ ながると考えている。 ィプロモーションなどにつ 者等が訪れることで、シテ が期待できる。また、観戦 グに所属する神奈川フュ 本市では、野球のBCリ チャードリームスが本拠 モデルとなる先導的なまち 大変重要と考える。全国の |め、周辺企業等との連携も |ノベーションパークをはじ るためには、湘南ヘルスイ これからまちづくりを進め た覚書が先日締結された。 づくりをどのように実現し 全国のモデルに (ふじさわ湘風会) **質問 村岡新駅設置に向け**

|ており、研究開発拠点とし |既に研究開発機能が集積し

|て優位性を持った地域と認

識している。

これらの地域資源に加え、

の推進により、にぎわいの として、「観る」スポーツ 援を行っている。 れまでも活動場所などの支 都市宣言の目指す方向性 |ともに、地域に開かれた研|のと考えている。 |マとして世界に発信すると|ルとなるまちが生まれるも くり方針では、創造をテー |る村岡新駅周辺地区まちづ|し、 ていくのか聞きたい。 答弁 現在策定を進めてい

|発拠点として、新たなモデ

| て価値のある関係性を構築

地域に密着した研究開

|等が身近に交流できるまち 力を生かし、市民と研究者 |村岡の文化や緑といった魅

を育むことで、双方にとっ

プロスポ-

-ツ支援で藤沢に夢を

や関係団体とともに、プロ |ることを考えており、市民 創出や経済活性化につなげ いる。 究開発拠点を目指すとして

その実現に向けて、他の

スポーツチームの応援・支 まちづくりを進める際に

|援を行っていく。

|どとマルチなパートナーシ 自治体や地元企業、市民な

どを導入し、利便性向上と|組んでいく。 |は、その時々の技術革新な|ップを形成しながら、取り

市民オペラをはじめとする ている。これらに加えて、|にも努めている。

|を予定するなど、事業継続|術活動の維持に努めていく。 ウドファンディングの活用 文化芸術活動に対してクラ | 状況は大変厳しいが、芸術 |家等への支援並びに文化芸 文化芸術が置かれている



な取組を進めている。 器廃絶の実現を目指す様々 |核宣言自治体協議会及び平 関する条例を制定し、核兵 めて早い時期である昭和57 いる。 本市は引き続き、日本非

互理解の促進を図っていく。 通じ、平和意識の高揚と相 き続き、被爆地への派遣を さなどを伝えるために、引 る。子どもたちに平和の尊 包括的支援で防止を コロナ禍の自殺対策

年ぶりに増加に転じ、女性

(民主・無所属クラブ)

全国の自殺者数は11

国際的な世論の喚起を大き は、人々の草の根の活動が、 平和の実現は全国民の願い また、核兵器廃絶と恒久 組について聞きたい。 市における認識と防止の取

2024において平和の位

置づけは非常に弱いが、平

和に対する市の認識を聞き

びかけるべきと考えるが、

見解を聞きたい。

本市は全国的にも極

有国と非核兵器保有国の橋 | 庁内横断的な取組を進めて | また、本年3月の自殺対策

年に核兵器廃絶平和都市宣 | と核兵器廃絶の実現に取り | り自殺者数は増加傾向にあ | じさわでの自殺対策に関す 言を行い、平成7年には核 | 組んでもらいたいと考えて | り、より | 層深刻になると | る普及啓発に努めている。 |渡しとして、核軍縮の進展|きた。一方、コロナ禍によ 認識している。

次世代への継承も重要であ 戦後・被爆75年を迎え、 |けて取り組んでいく。 |核兵器廃絶と恒久平和に向 地の思いを共有しながら、 和首長会議と連携し、被爆 |うため、様々な支援関係機 応じて寄り添った支援を行 くりに取り組んでいく。 関とさらに連携した体制づ に対しては、本人の状況に

めて浮き彫りにしたが、本 は、孤独・孤立の問題を改 質問 コロナ禍の外出自粛 (市民クラブ藤沢) いる。コロナ禍における自 聞きたい。 殺対策について市の見解を や若年層の増加が目立って

歩であると認識している。 型地域包括ケアシステムの が増え始めた11月には午後 政府においては、核兵器保 | 重点テーマの一つとして、| 9時まで時間を拡充した。 | 影響から、国によりイベン ついては、これまでも藤沢 社会的孤立の防止に ろの相談を開始し、感染者 から、ふじさわコロナここ 殺対策として、昨年の6月

取組について、

生活に不安を抱えている方 | 方々の背景にある要因を踏 支援に取り組んでいく。 |図ることにより、包括的な まえ、関連施策との連携を |生きづらさを抱えた多くの 強化月間に合わせ、広報ふ 感染拡大が長期化する中で、 文化芸術活動の危機 の活動に影響があった。 |たことで、多くの文化団体 |利用に一定の制限がなされ 既納使用料の全額を還付す 者が取りやめた場合には、 協力も得た中で、利用予定 ラリーでは、指定管理者の や市民シアター、市民ギャ ることとし、 このような中、 間接的に支援 市民会館

このような状況を踏まえ、

|答弁|| コロナ禍における自|文化芸術の分野への支援が 不可欠だが、現状と今後の け舞台・ライブは存続の危 テインメント業界、とりわ 質問 文化芸術やエンター 機ともいえる状況である。 芸術家等への支援を 市の見解を |うことで、作品をご覧いた |無観客で演奏会等を実施し |中止事業の一部について、 らい創造財団においては、 を行った。 だけるよう取り組んだ。 インターネット配信等を行 は、展覧会の会期の変更や さらに、公益財団法人み

様々な手法で文化芸術活動を守る=市民オペラ「トスカ」